

都高退教ニュース

NO. 97

2020年9月01日

東京都高等学校教職員組合退職者会

千代田区一ツ橋2-6-2 都高教内
TEL 03-3230-2166 (代)



狸穴まみあな坂 (港区麻布台)

まみとは雌タヌキ・ムササビまたはアナグマの類で、昔、その穴が坂下にあったという。採鉱の穴であったという説もあるようです。坂上の東側(左側)は「ロシア大使館」になります。

「狸穴公園」を右折して行くと、「鼠坂」。一名、「鼬(いたち)坂」。この付近には、「狸」がいたり「鼠」がいたり「鼬」がいたり、北には「溜池」があったりと、高台と谷と湿地が入り組んだ土地柄だったようです。今やその面影もありません。起伏に富んだこの地域には、「行合坂」、「三年坂」、「落合坂」、「雁木坂」、「我善坊谷坂」など、由緒ある坂道があります。

足腰が丈夫なうちに(足腰を衰えさせないために)都内の坂巡りをされるのは、いかがでしょう。
(写真提供: KHさん)

- 都高教・都高教退職者会共催 -

「憲法とジェンダー」

講師 中野麻美さん(弁護士)

日時: 12月5日(土)
15時~17時

場所: 日本教育会館 901



囲碁大会

9月25日(金) 10:00~

ナーベルお茶の水

参加費 500円

お弁当 飲み物 記念品 あり

※マスクの持参をお願いします。



も く じ

2020年度都高教退職者会・定期総会中止についての報告……………3

- ・ 2020年度活動方針
- ・ 2020年度役員名簿
- ・ 「2019年度収支決算書」「2020年度会計予算」

2020新型コロナウイルス感染症、休校、再開、学びの保障
都高教執行委員長 小嶋 広行……………12

退職者会の取り組みの紹介
退職者会幹事会……………13

新型コロナ感染拡大で見たこと・・・
本村 富美子……………14

書籍紹介

『鉄筆とピラ』／「立高紛争」の記録 1969－1970
- 都立立川高校「紛争」の記録を残す会編（「同時代社」）……………15

読 書 『鐘の渡り』（古井由吉）新潮社他……………16

今どきの「落語」案内—初心者のための（第16回）
アズキアライ……………17

カンパのお礼とお願い ……………21

2020年度 第6回 辺野古座り込みツアーへのお誘い……………22

東京歴史散歩「中山道・板橋宿まで」へのお誘い……………23

- 都高教・都高教退職者会共催 -

「憲法とジェンダー」（講師 中野麻美さん）案 内……………24



2020年度都高教退職者会・定期総会中止についての報告

5月30日に予定していた2020年度都高教退職者会・定期総会は新型コロナ感染拡大のため、中止にしました。残念でしたが、私たち高齢者の健康・安全を考えての判断でした。

これに伴い、2019年度活動報告・決算・2020年度活動方針案・予算案などは、6月4日幹事会にて了承され、責任執行することになりました。

また今年は役員改選期にあたりますが、コロナ禍中ですので、全員留任とさせていただきたいと思っております。任期は2年ですので、来年度総会で2020年～2021年度の役員について信任をいただきたいと思います。

ニュースにこれらの議案を載せますので、ご意見を退職者会までお寄せください。またコロナ禍での皆さまの近況等もお知らせくださるとありがたいです。

ご意見は来年度の議案や活動に反映させていただきます。

コロナ禍という状況でしたが、総会で議案をお諮りできなかったことを申し訳なく思っています。会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈りいたします。

今後ともよろしく申し上げます。



都高教退職者会会長・本村富美子

都高教退職者会第49回定期総会議案書

2019年度 経過報告

(省略)

2020年度活動方針

1) 都高教退職者会をめぐる情勢

(ア) 新型コロナウイルスの感染拡大

昨年末中国・武漢で発生した新型コロナウイルスは瞬く間に、世界規模の大感染となり、WHOがパンデミックと認定しました。世界の感染者は600万、死亡者は37万人を超えました。3月にはオリンピック中止・4月7日にはコロナ特措法に基づく緊急事態宣言がだされ、私たちの暮らしは一変しました。そして憲法に保障されている権利や自由を制限されることになりました。

この感染症は世界の経済活動をのみこみ、貧困や差別で苦しんでいる人ほど、その影響

を多く受け、命にかかわる格差拡大をもたらしています。コロナ感染の収束のためには、外出自粛や規制を受け入れる必要もありますが、これにより暮らしが成り立たず、命を脅かされてしまう多くの人への補償がないままの、緊急事態宣言でした。当初の安倍政権の対応はオリンピックに関心が向いており、このため検査数をしぼり、経済活動の自粛を強要しつつも休業補償をしないというもので、感染拡大にもつながる失政でした。また当初からその必要性が指摘されていた全国民への

臨時的給付金についても当初はかたくなに拒否し、国民の声を反映した野党・一部与党の声に押されてようやく「10万円の給付」を決定しました。

また、国連事務総長が「DVの増加」の危険性を指摘し、対策を求めたにもかかわらず、

DV被害の把握や被害者保護・生活支援などへの取り組みは弱く、10万円給付も個人ではなく「世帯主」を受取人とするという対応でした。

コロナ感染拡大は私たちの社会にあった差別意識もむき出しにしました。さいたま市は市内の幼稚園・保育園へのマスク配布に際し、朝鮮幼稚園を対象外にしましたが、多くの抗議によって配布することになりました。厚労

(イ) 安倍政権の権力の濫用と腐敗

安倍政権は、森友・加計学園・桜を見る会で典型的にみられるように「お友達」や支持者へ、権力と税金を使って便宜をはかり、おもてなしを行い、それを隠すために、公文書の改ざん・廃棄・うその答弁を行ってきました。

獣医学の国際拠点であるとして創立された加計学園では推薦入試で韓国人差別の疑いがあり、森友学園に関しては、公文書改ざんにかかわり、自死された赤木さんの遺族が国と佐川元理財局長を訴えました。しかし、安倍

(ウ) 憲法改悪と軍事化、そして天皇制と日の丸・君が代

2015年9月の安保法制以後、軍拡や軍事化が進み、アメリカとの軍事一体化と防衛関係費の急な増額が行われています。欠陥機といわれるF35戦闘機や地上配備型迎撃ミサイル、イーグス・アショアなどをトランプの言いなりに爆買いし、自衛隊は「専守防衛」からアメリカと共に闘う「攻撃軍」に変わろうとしています。今年1月には、米国がイラン核合意から一方的に離脱したために情勢が悪化した中東に、「調査・研究」という名目で自衛隊を海外派兵しました。

そして安倍首相は、コロナ感染拡大のなかでも、「緊急事態条項」「自衛隊明記」など改憲へ意欲を示し、衆院憲法審査会を開き、国民投票改正をもくろんでいます。

昨年の天皇即位では、沿道で日の丸の小旗が振られる中、安倍首相がパレードに参加し、存在をアピールしました。権力者の「慈悲」

省は、臨時休校によって、仕事を休んだ保護者に支給される休業補償を、風俗業界で働く女性は除外するとしましたが、これも批判を受け支給されることとなりました。また医療関係者やその家族へのタクシー乗車拒否、登園拒否、差別もありました。感染者に対しても攻撃や非難や差別があり、日常生活が維持できず、転居せざるを得ない人もでました。

フリーランス・個人事業主・パートタイム・派遣労働者や外国人留学生や外国人労働者、そしてシングルマザーなどは休業要請や休校によって、仕事を失い、生活が成り立たなくなります。政府の支援は、これらの人びとにこそ届かなければなりません。

首相は「再調査はしない」と遺族の声を無視し続けています。

また、検察を支配するため、官邸に近い黒川検事長の違法な定年延長を閣議決定しました。これを後付けで適法化する検察庁法改正案に対し、SNSのツイッター上で900万件の抗議や検察OBの反対の意見書もありました。政府は民意を無視できず、法案成立を見送りました。「首相の犯罪」を暴くためにも、検察が政権に私物化されてはなりません。

である「恩赦」が行われ、国民主権を忘れてしまうような代替わり行事でした。平和憲法はその前提に侵略戦争や植民地支配への反省があります。都教委の「日の丸」「君が代」の強制、そして不起立者への処分はゆるされないことです。

憲法23条は「家族の中での個人の尊厳と両性の平等」をうたい、家父長制を否定しました。しかし社会の軍事化が進むと、愛国心や国家への忠誠心や家族の絆が叫ばれるようになります。閉鎖的な息苦しさが生まれ、家庭や日常生活の中で、暴力や差別も加速します。

日本が安保法制によって「アメリカと共に戦争のできる国」になることは、対外的に暴力の行使を容認するだけでなく、日常的な暴力や差別が拡大することも忘れてはならないことです。

(エ) 辺野古新基地建設反対

昨年4月、国土交通大臣が沖縄県による「辺野古埋め立て承認撤回」を取り消したことに對して、県は「国の関与取り消し訴訟」をおこしましたが、昨年10月福岡高裁那覇支部で却下され、今年3月には最高裁が県の上告を棄却し、沖縄県の敗訴が決定しました。

嘉手納基地では3月末に2人の米兵のコロナ感染が発生しましたが、日米地位協定により、感染者の情報も出されず、マスクなしの米兵が基地の外でランニングするありさまでした。また4月10日には普天間飛行場で有害な泡消火剤が、ドラム缶700本以上も住宅地に流出する事故が起きました。しかし発がん性の疑いのある有機フッ素化合物を含む泡の回収にあたったのは地元消防隊員でした。米軍は何もせず、基地内の土壌採取も拒否していましたが、県の強い要求で提供しました。

工事関係者の感染もあり、オール沖縄会議は、2100日を超えたキャンプシュワブゲート前での座り込みを一時休止しました。全国に緊急事態宣言が出され、自粛・中止が相次いでいるさなかの4月21日、政府は「大浦湾軟弱地盤改良工事に伴う設計変更の申請」を県に提出しました。また、この設計変更の結果、当初発注された工事の一部が中止された

(オ) 原発再稼働反対

福島第一原発事故から9年、福島では依然として続く「原子力緊急事態」のもとで、子どもたちの甲状腺がんが多発し、避難解除されても汚染された故郷に帰れない、帰らない人々が大勢います。

メルトダウンした核燃料の状態も依然として不明であり、被ばくをさけるためにもデブリの処理は時間をかけて行い、拙速をさけて「石棺」におさめることなども考慮すべきです。

政府や原子力規制委員会はトリチウム汚染水の海洋投棄を進めていますが、生態系を汚染し、危険です。地元も反対しています。

国の「原子力をベースロードに」との方針を受けて、九電、関電、四電などは再稼働を強行して、太陽光発電など再生可能エネルギーを圧迫しています。しかし伊方原発、高浜原発などで事故が続発しています。福島原発事故の教訓からも原発の稼働は認められません。

原子力規制委員会は福島第一原発と同じ沸

にもかかわらず、着手前のものも含めて該当工事予算の7割にあたる300億円余りが施工業者に支払われたという、あり得ない事実も明らかになっています。

マヨネーズ状といわれる軟弱地盤の上に、巨大基地を造るという国に對し、玉城知事は「到底納得できない」と認めない方針です。

沖縄県が有識者に依頼して設けた「万国津梁会議」は3月に「辺野古新基地建設は技術的にも財政的にも完成は困難。普天間の海兵隊の訓練を県外・国外に移転し、普天間の運用停止。日米の有識者で普天間返還の議論を！」と提言しました。

日本の国土面積の0.6%しかない沖縄に在日米軍施設の70%も押し付け、さらにアメリカのために100年も使える大基地を造ろうとすること自体が、沖縄への差別です。沖縄の人びとは、これまでも基地による性暴力や殺人事件・事故・環境破壊で苦しみ、命を脅かされてきました。2016年4月に元米軍軍属によって殺害された女性を悼み、今年4月には現場では献花が行われました。命を脅かす新基地建設はなんとしても止めさせなければなりません。

騰水型原発（BWR）であり、東日本大震災で被災した東海第二原発の運転期間を20年延長しました。周囲30キロ圏に96万人が暮らす危険な原発の再稼働は絶対に認められません。

今年4月に国連で開催予定だった核拡散防止条約（NPT）再検討会議はコロナ感染拡大のため延期されました。この間核保有国の核軍縮は進むどころか、米ロ間中距離核戦略廃棄条約（INF）の失効やアメリカの小型核兵器配備など、核開発競争が再燃しています。NPT再検討会議の役割はさらに重要性を増しています。

2017年には国連総会で核兵器禁止条約が採択されました。日本政府は唯一の被爆国でありながら、条約の批准・発効に反対しています。都高教退職者会は核兵器廃絶1000万署名にとりくみ、核兵器廃絶の取り組みが前進するようNPT再検討会議に注目していきます。

(カ) 社会保障

昨年12月に全世代型社会保障検討会議の中間報告が示されました。この会議は首相官邸に設置され、連合や医師会・介護の現場などの当事者団体代表は含まず、経済産業省や出身秘書官・経団連・経済同友会がメンバーです。社会保障の給付抑制と負担増を進める立場ですが、中間報告では後期高齢者窓口負担を2割に引き上げなどの不人気な施策は先送りしました。

201通常国会では、希望する人が70歳まで働けることを企業の努力義務とした高齢者雇用安定法改正案が成立しました。しかし企業のもとで仕事を続けながら、身分だけ「個人事業主」になり、労働法で守られない高齢労働者をつくるのではないかと危惧されます。またパートなど非正規労働者の厚生年金の加入拡大を柱とした年金制度改革関連法案も成立しました。これにより保険料を払う制度の支え手を増やすこととなります。この厚生年金の適用は現在従業員501人以上の企業で、週20時間以上働くことが条件です。拡大については企業規模要件を緩和し、「2022年101人以上→2024年51人以上」になりました。これは就職氷河期で正社員の道が閉ざされたり、家事・育児・介護負担のため短時間労働に従事している人たちにとっては、一歩前進ですが、企業規模で排除された当事者は老後生活困窮者となります。企業要件の撤廃が必要です。また公的年金の受け取り開始年齢を60歳～75歳まで選べることになりました。

後期高齢者の医療費窓口負担増については、今回は見送られました。しかし75歳以上の

(キ) 教育

昨年12月、給特法が改正され、これまで野放しだった長時間労働が「月45時間上限指針」となりました。しかし「1年単位の変形労働時間」が導入されました。繁忙期の勤務時間を延長する代わりに夏休みの休日を増やすというものです。都立高校では、夏休みも補習・就職指導・部活動・文化祭準備・合宿引率などがあり、休むのは難しい状況です。都高教は教職員全体の長時間労働の解消を求めて、引き続き取りくんでいます。

文科省は昨年11月、大学入試共通テストにおける「英語民間試験」導入を延期し、12月には「国語・数学の記述式試験」も見送りました。受験生の経済状況や居住地により、

後期高齢者は年金を主な収入とし、医療費も現役世代の4倍とされています。医療費自己負担1割を堅持し、高い所得の人にだけ応能負担を求めるべきです。

介護保険については、要介護1・2に対するサービスを地域支援事業に移行させてはなりません。また全産業の平均を下回っている介護職員の賃金と待遇改善も喫緊の課題です。

日本の税制・社会保障は、「夫が経済的に妻と子を養い、妻が家事・育児・介護を無償で行う」という家族形態を前提とする制度設計になっています。社会保険は家族の代表である男性労働者が掛け金を払い、家族は受給資格を得ます。税制でも、配偶者控除や3号被保険者など専業主婦を優遇する制度になっていますが、それは反面、「103万円の壁」「130万円の壁」などとして、女性の就労を制限し、また就労しても短時間労働者に誘導する仕組みとして機能していました。

シングルマザーやワーキングマザーなど、モデルとされた家族形態に当てはまらない単身者などには税金や社会保障の面で多くの不利があり、またこのような社会構造の中でその多くが非正規・短時間労働に押し込められている現実があります。

これまでも企業は景気の変動に応じて雇用を調整する際は、非正規労働者を「活用」してきました。今回のコロナ拡大による景気の悪化の影響も非正規労働者を直撃しています。さらに短時間労働者として働く女性や若者は、企業規模によって厚生年金に入れられないため、老後の貧困が心配されます。

格差が生じる英語民間試験の問題やベネッセグループに採点業務を独占させ、入試を企業の利益のために利用することは回避されました。50万人の受験生に論述入試を行うことは、模範解答に沿った「特定の論理的な読み取り方」に枠をはめ、深い読解力・自由な発想などを否定することも大きな問題です。

昨年12月文科省の調査によると、2018年度に全国の公立小中高校などで、わいせつ行為やセクハラで処分された教員は282人と過去最多でした。神戸の小学校での教員による同僚へのいじめなど、パワハラ処分は32人でした。退職者である私たちも教育現場でのハラスメントについて、その背景や原因、

そして被害者支援などに目を向ける必要があります。

2013年、安倍政権は朝鮮高校を「授業料無償化制度」から排除しました。これに対し朝鮮高校卒業生などは国を訴えました。昨年8月最高裁は、原告敗訴の1、2審判決を支持し、上告を退けました。最高裁が在日朝鮮人への差別・民族教育に対する偏見を容認した許しがたい判決です。このような安倍政権の

(ク) ジェンダー平等

昨年12月「世界経済フォーラム」は世界の153カ国を対象にジェンダーギャップ指数（女性差別の現状）を発表しました。日本は昨年より後退し、121位でした。この数字は日本の現実をはっきり表しています。

政治分野では、議員・閣僚とも女性の参画は進まず、144位でした。2018年5月に成立した候補者男女均等法施行後、2019年7月参議院選挙で立憲民主党や共産党は多くの女性候補者をたてました。しかし自民党の候補者は15%で、女性活躍とはほど遠いものでした。経済分野では、女性管理職の割合はふえたものの、男女の賃金格差は広がり115位でした。総務省が今年1月に発表した昨年の労働力調査（平均）によると女性の就業者は46万人増えて2992万人と7年連続過去最多となりました。しかしそのうち非正規は1475万人にのぼり、24万人増加しています。男性の非正規労働者は691万人で、非正規の中の女性の割合は7割近くになっています。

日本は政治や経済などの中枢は男性が占め、女性は方針決定の場に参加できていません。また労働組合も三役は男性が多く、退職者会も例外ではありませんでしたが、少しずつ変化が現れています。退職者連合では女性事務局長が誕生し、日退教でも単会女性役員が増えました。都高教退職者会は幹事の3割は女性という目標をもち、会長・副会長・事務局長などの役員4人中、女性は2人です。

昨年5月「女性活躍・ハラスメント規制法」が成立しました。セクハラ・パワハラを含むハラスメントは、会社・議会・メディア・芸能・介護・サービス業・学校・教育実習・就活、そして家庭など、あらゆる場で起こっています。成立した法律は初めてハラスメント

排外主義がさいたま市での朝鮮幼稚園へのマスク配布からの排除につながっています。

在日朝鮮人に対する差別・ヘイトスピーチは、日本人の中の多様性も認めず、少しでも異質なものへの排除・攻撃と根は同じです。コロナ感染拡大によって、さまざまな人に対する差別や攻撃が起こっています。私たちは命や人権を脅かすこのような動きを認めず、差別のない社会を目指していきます。

を規制したのですが、罰則を伴う禁止規定はありません。対象も「職場」に限定し、就活生や個人事業主など弱い立場の人は救済の対象になりません。12月に厚労省労働政策審議会・最終案に対するパブリックコメントは1139件にも上り、大半が修正を求める声でした。都高教退職者会もパブコメに意見を送付しました。しかし就活セクハラを訴えた学生などハラスメントに苦しむ当事者の声は届きませんでした。安倍首相の取り巻きジャーナリストからレイプ被害を受けた伊藤詩織さんも就活時の性暴力でした。ハラスメントは力をもつ者による他者への支配であることを忘れてはなりません。

一方、昨年6月21日、ILO年次総会において、ジェンダーに基づく暴力を含む「ハラスメント禁止条約」が採択されました。この条約はあらゆるハラスメントを禁止し、仕事の世界における労働者とその他のものを保護するとしています。政府はこの条約批准に否定的です。対象を限定しないハラスメント禁止法をつくらせ、ILO条約の早期批准を求めていく必要があります。

コロナ感染拡大への政府の対応にはジェンダー平等の視点がありませんでした。突然の休校宣言や在宅ワークで育児・家事・介護など女性の負担がどれだけ増えるのか？ 仕事はどうするのか？ 家庭内のDVや虐待にどう対処するのか？

女性のケア能力は当たり前と考えられ、当事者の姿は見えませんでした。今こそあらゆる法律・政策・事業や組織の在り方を問い直し、ジェンダー平等を達成するための「ジェンダー主流化」が必要なのではないのでしょうか。

2) 2020年度の重点目標

◇憲法改悪阻止！

- 憲法改悪を許さない取り組みに全力でのぞみます。
- 安倍政権の「戦争をする国づくり」路線、集団的自衛権の行使に反対し、憲法違反の「安保体制」＝「戦争法」を廃止させ、立憲主義を取り戻すために全力をあげます。
- 特定秘密保護法、共謀罪法の廃止を求めます。
- 憲法改悪を許さず、「戦争をさせない1000人委員会」の活動に積極的に参加します。
- 大きな共同による新たな「5・3憲法集会」に積極的に参加します。
- 横田基地・普天間基地等オスプレイの配備に反対します。
- 「日の丸・君が代」強制に反対し、裁判闘争を支援します。
- 辺野古新基地建設・高江オスプレイパッドに反対し、普天間基地の無条件撤去をめざして、沖縄と連帯しとりくみをすすめます。

◇原発の再稼働を許さず、エネルギー政策を転換させ、脱原発社会をめざして取り組みます。

- 稼働中のすべての原発の即時停止を求めます。
- 東海第二原発など、原発の再稼働に反対します。

◇社会保障の充実をめざします。

- 後期高齢者医療制度廃止を実現し、年金・医療・介護などの福祉制度や税制の改善に取り組みます。
- 格差社会の是正を求め、社会保障を充実させます。

◇会員の親睦・交流を深め、組織の拡大に取り組みます。

3) 具体的な取り組み

◇組織部

- 憲法改悪を阻止するために、野党共闘を作り上げ、安倍政権の打倒をめざします。
- 戦争する国になるための秘密保護法、戦争法、自衛隊海外派兵、共謀罪法の廃止を求め、学習会や集会に等に取り組みます。
- 核燃料サイクルを止めさせ、東海第二原発など原発の再稼働を許さず、すべての原発の廃炉を求めます。脱原発学習会を企画するとともに、全国集会などに参加します。
- オスプレイの横田基地・普天間基地等全国配備・飛行訓練に反対し、普天間米軍基地の撤去を要求します。
- 辺野古新基地建設、東村高江のオスプレイパットを許さず、沖縄の闘いに連帯し、辺野古・高江の座り込み行動に積極的に参加します。
- 「日の丸・君が代」強制反対裁判闘争等を支援します。
- 女性の参画をすすめ、ジェンダー平等を実現します。
- セクシュアルハラスメント・性暴力を許さない取り組みを行います。
- 連合メーデー・日比谷メーデーに参加します。
- 退職予定者に勧誘リーフ「都高教退職者会へのご招待」を配布する等、会員拡大に取り組みます。
- 日退教・各県退教・都退協と連帯して取り組みます。

◇財政部

- 財政難対策として、都高退教ニュースの広告主を開拓します。
- 活動継続のために会員にカンパを呼びかけます。
- 沖縄支援のカンパを呼びかけます。

◇福利厚生部

- 後期高齢者医療制度の廃止をめざし、高齢者医療制度改革をすすめます。
- 国民皆保険や日本の食糧を破壊する等の危険性の高いTPPに反対します。
- 年金引き下げに反対し、年金制度の改善にとりくみます。
- 「介護保険法」の改悪に反対し、社会的介護をめざし、同法の改善にとりくみます。
- 囲碁大会・東京歴史散歩・お花見を行います。

◇広報部

- 都高退教ニュースやホームページの内容充実にとりくみます。
- 広告同封で送料を減額する取り組みを続けます。

4) 都高教退職者会・2020年度役員名簿

会 長	本村 富美子
副 会 長	芥川 治子・菅 豊
事 務 局 長	江口 彰夫
幹 事	愛甲 哲郎・小野 啓一・片山 亨・川口 政利 草野 秀一・河野 亮玄・後藤 康彦・佐伯 典子 杉浦 孝雄・星野浩一郎・松田 秀子・山田 進 平岡 良久
会 計	古館 隆子
会 計 監 査	上田 実・池上 裕
担当執行委員	村上 由美



2019年度

第3三半期
都高教退職者会収支決算書

自 2019年12月 1日
至 2019年 3月31日

貸借対照表

資 産	金 額	負 債	金 額
普通預金	570,503	次期繰越	1,246,934
振替貯金	676,431		
合 計	1,246,934	合 計	1,246,934

収支報告書

収入の部

項 目	予算額	前期迄の計	当期計	決算額	予算残	%	摘 要
前年度繰越金	1,106,059	1,106,059	0	1,106,059	0	100	
会 費	400,000	680,000	10,000	690,000	-290,000	173	10,000×1人
都高教より補助	100,000	100,000	0	100,000	0	100	
広告送料負担金	150,000	0	130,000	130,000	20,000	87	セレモア・教職員共済
沖縄カンパ収入	200,000	211,000	50,155	261,155	-61,155	131	沖縄カンパ
雑 収 入	600,000	446,117	64,403	510,520	89,480	85	カンパ・交通費補助他
合 計	2,556,059	2,543,176	254,558	2,797,734	-241,675	109	

支出の部

項 目	予算額	前期迄の計	当期計	決算額	予算残	%	摘 要
会 場 費	50,000	0	0	0	50,000	0	
通 信 費	500,000	411,734	420	412,154	87,846	82	ニュース発送費
交通・行動費	200,000	107,710	24,599	132,309	67,691	66	幹事会交通費他
上部団体分担金	150,000	169,480	0	169,480	-19,480	113	
研 修 費	150,000	137,022	7,124	144,146	5,854	96	原発学習会講師懇談会費他
印 刷 費	400,000	326,592	0	326,592	73,408	82	
事 務 費	120,000	48,110	7,904	56,014	63,986	47	用紙代・振込手数料他
会 議 費	15,000	9,000	0	9,000	6,000	60	
慶 弔 費	50,000	15,000	5,000	20,000	30,000	40	総会祝金
沖縄関係費	300,000	201,105	80,000	281,105	18,895	94	辺野古カンパ
予 備 費	621,059	0	0	0	621,059	0	
合 計	2,556,059	1,425,753	125,047	1,550,800	1,005,259	61	

2019年度会計監査報告書

2019年度都高教退職者会決算書と帳簿ならびに各種書憑書類をつきあわせ監査した結果、厳正かつ正確であることを認めます。

2020年 6月 1日

都高教退職者会会計監査 上田 實 印

都高教退職者会会計監査 池上 裕 印

注：原簿にはご本人の署名捺印あり。

2020年度 都高教退職者会会計予算

2020年 4月 1日～2021年 3月31日

収入総額 2,676,934

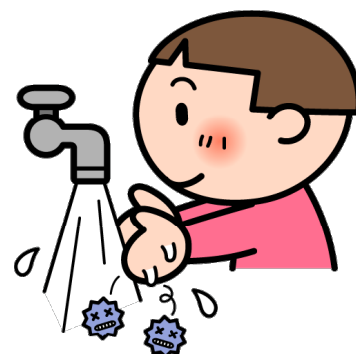
支出総額 2,676,934

収入の部

項 目	19年度予算	19年度決算	20年度予算	摘 要
前年度繰越金	1,106,059	1,246,934	1,246,934	
会 費	400,000	690,000	400,000	10,000/人×40人
都高教より補助	100,000	100,000	80,000	本部補助
広告送料負担金	150,000	130,000	150,000	
沖縄カンパ収入	200,000	261,155	200,000	沖縄カンパ
雑 収 入	600,000	510,520	600,000	総会祝い金・カンパ・利子等
合 計	2,556,059	2,797,734	2,676,934	

支出の部

項 目	19年度予算	19年度決算	20年度予算	摘 要
会 場 費	50,000	0	50,000	総会等会場費
通 信 費	500,000	412,154	500,000	ニュース発送費
交通・行動費	200,000	132,309	200,000	総会・幹事会・上部団体行動費
上部団体分担金	150,000	169,480	180,000	日退教・都退協分担金
研 修 費	150,000	144,146	150,000	講演会講師謝礼・車代
印 刷 費	400,000	326,592	400,000	ニュース印刷費
事 務 費	120,000	56,014	100,000	連絡通信費・振込手数料・紙代等
会 議 費	15,000	9,000	15,000	
慶 弔 費	50,000	20,000	40,000	他団体祝い金
沖縄関係費	300,000	281,105	300,000	辺野古・高江カンパ等
予 備 費	621,059	0	741,394	
合 計	2,556,059	1,550,800	2,676,394	



「都高教」からのメッセージ

2020「新型コロナウイルス感染症」、休校・再開・学びの保障

都高教執行委員長 小嶋 広行

新型コロナウイルス感染対策により、各集会・行事の中止・延期が相次ぎましたが、都高教も本部委員会の中止を余儀なくされました。そうした中でも、6月27日、今年度の定期大会を規模縮小・日程短縮ではありましたが開催し、何とか成功裏に終えることができ、運動方針を確立しました。新型コロナウイルス感染の一刻も早い終息を願うばかりです。

学校現場の混乱

異例な年度末・新年度を送りました。突然の休校要請によって、生徒・学校現場・教職員のみならず、家庭・保護者にも不安や混乱が広がりました。

都高教は、都教委に対し、学校現場の不安や課題解決のため、安心・安全を最大限優先し、学校現場に混乱をもたらさないこと、そして教職員の勤務環境に取り組みを進めてきました。

教職員は感染・体調不安や育児、介護などの諸事情がある中で、自宅を含めての勤務となりました。そうした中、生徒や家庭への連絡の増、また、ICT活用・オンライン授業などに戸惑いつつも、生徒のために何とか教育活動を止めないよう、取り組みがなされてきました。感染拡大の恐れがある限り、学校行事・部活動、そして進学・就職などの先行きは見通せないところがありますが、生徒一人ひとりに気配りし、また、ストレスや不安、目標喪失に陥ることがないように生徒と向き合い、対応を進めていく必要があります。

6月再開後、分散登校などを経て、下旬からほぼ通常の形になりました。現場はサーモグラフィーの対応や消毒作業などで、忙殺されています。この新型コロナ対策によって、多数の教職員の必要性、少人数で行う授業の教育効果、冷房など施設設備の充実の大切さが実証されたとも言えます。

7月半ばになりこの原稿を書いています。例年なら学校現場はもう一息という時期ですが、夏休みも短縮となり、初めての経験の中、疲弊と暑さで、生徒・教職員とも体調面が心配です。

「一年単位の変形労働時間制」条例化阻止を

「一年単位の変形労働時間制」の文科省令・指針が出され、いよいよ本格的な導入阻止の闘いとなります。当面は9月議会での「条例化」阻止が焦点です。短期間での闘いです。

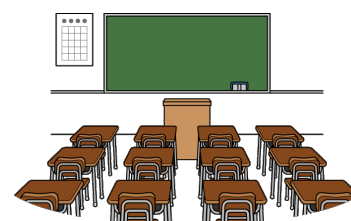
超勤「月45時間上限方針」が策定されましたが、この間全く検証ができていません。また、夏休みが本当に「閑散期」であるかのエビデンスもあった上で議論を進めるべきところですが、それも今年は「通常」ではありません。何よりも新型コロナ感染対策に教職員は不断の努力を続けています。そして、先行き不透明な中で、学校現場に混乱を持ち込むような新たな制度を導入することは、当然あってはならない話です。

都高教は、職場の取り組みを力に、「一年単位の変形労働時間制」導入を許さないために都教委との交渉・協議に取り組んでいきます。

「定年延長」・賃金確定

人事院・人事委員会の民間給与実態調査が遅れ、勧告の動向が見通せません。一方、定年延長について、本来なら先の通常国会で決定されるはずでしたが、多くの批判があった「検察庁法改正案」の束ね法案として「国家公務員法等改正案」が廃案となってしまいました。改正案再提出の動向に注視するとともに、諸要求実現に向け都労連確定闘争に取り組んでいきます。

課題は山積しています。退職者会の皆様にも様々ご協力・ご支援いただくこともあるかと思いますが、引き続きよろしく願いいたします。難局を乗り越えましょう。



退職者会の取り組みの紹介

退職者会 幹事会

「退職者会」は、憲法改悪を許さず、平和と人権を守る立場から、「19日国会前行動」に2015年より参加してきました。しかしコロナ感染拡大により、今年3月19日より参加を見合わせています。

「脱原発全国集会」や「5・3憲法集会」も中止となり、声を上げる機会が狭められています。しかし3月以降はオンライン署名や手紙・はがきなどで政府や与党に対して意見や抗議の声を届けてきました。

○トリチウム汚染水の海洋放出に反対するオンライン署名

○黒川検事長の違法な定年延長を適法化する「検察庁法改正案」に反対するオンライン署名と抗議はがき

○「辺野古埋め立て設計申請」に抗議するはがき

○森友学園での公文書改ざんに関わり自死された赤木さんの連れ合いが「再調査を！」と裁判を起こされた件に対して、インターネット署名と与党へ手紙

公明党代表・山口那津男さま

森友学園に関する再調査をおねがいします。

文書改ざんを強制され、長時間労働と心理的負担から、心を病み自死された近畿財務局職員の赤木俊夫さんの手記を読み、この件をうやむやにするべきではないと考えました。

ご遺族の「自死の原因になった改ざんは、誰が何のためにやったのか？真実を知りたい！」というお気持ちは当然だと思います。誠実に国民のために働いてこられた赤木さんが、公務員としての良心を踏みにじられ、不本意な改ざんに関わされたことが、ご本人にとってどれほど辛く、苦しいことだったか、想像を絶します。

一方、改ざんの方向性を指示した佐川宣寿理財局長は、その理由も経過も語らないままに停職3か月の後には、国税庁長官という出世をしています。公務員として決して行ってはならないことです。

文書の改ざんを主導した人がこのような地位におさまることも理不尽で、国政に対する信頼を失います。

また佐川氏は、遺族に謝罪もお悔やみも伝えていません。麻生氏も弔問を拒んでいます。政治家として、官僚として、そして人として、このような心無い仕打ちは許せません。

佐川氏の国会証人喚問と第三者委員会を設置して、真相を解明してください。

2020年5月7日

東京都高等学校教職員組合退職者会・幹事一同

新型コロナ感染拡大で見たこと・・・

本村 富美子

1月に武漢で新型コロナウイルスが発生したというニュースを聞いた時は、他人事だった。それがあつという間にパンデミックになり、わたしの日々の暮らしも変わった。

4月の緊急事態宣言後は、家で新聞やTVニュースを見て、過ごしていた。感染者や病院関係者への偏見や差別、そして自粛警察という動きを聞いて、息苦しく暗い気持ちになった。今まで自由に出かけ、友人と話したり、飲んだり、囲碁に行っていた日常がどんなに大切か、そしていとおしいものだったか実感した。

新聞を読むと、コロナ感染拡大で暮らしが成り立たなくなり、命を脅かされてしまう人たちの現実があった。現役の時、職場の定時制高校には、給食が貴重な栄養源だった生徒や非正規職員の給食調理員さんたちがいた。また母子家庭も多く、仕事をしている生徒はアルバイトで、サービス業が多かった。外国人や障害を持っている生徒もいた。彼ら・彼女たちは仕事があるのだろうか？仕事がなくなったら、休業補償はあるのだろうか？と思っていた。

またこの感染拡大が女性たちに与えた影響も気になった。仕事を休んだ保護者に支給される休業補償金が風俗業界で働く女性には最初支給されなかったが、抗議により、支給されることになった。性風俗で女性が搾取されている現実の上に、職業差別であり、更に搾取するのかと思った。

また「DVが増加している」とわかっていたにもかかわらず特別定額給付金10万円は「世帯主」へ給付された。家庭の中でDVを受け、外出できない女性やギャンブル依存の父をもつ家族は受け取れないことがわからないのだろうか？相変わらずの家単位の施策だと思った。その上ケア労働は家族任せだった。

女性にとって「ステイホーム」は家で優雅に犬を抱いたり、本を読むことではなかった。切れ目のない子供や高齢者の世話や家事などの膨大な「無償労働」を担った上でのテレワークで、女性たちは疲弊していた。

新型コロナウイルスで、改めて私たちの社会の不十分さを気づかされた。女性・外国人・障害者・学生・高齢者などが多い非正規雇用の人たちが、休業要請の影響を大きく受け、格差や貧困が拡大していること。わたしたちの社会が抱えている差別意識が噴出したこと。対策が家単位、ケア労働が家族依存であり、ジェンダーの視点がないことなど課題が大きい。このような現実をそのままにして「新しい生活様式」などと言ってほしくないと思った。政治家には誠実であってほしいと強く思った。私も気が付いたことを、変えていきたいと思った。

4月以降、退職者会の会員の皆様も今回の新型コロナウイルス感染症の蔓延、「緊急事態宣言」の発出後の自粛生活、さらに今日までさまざまな経験・思いをされていると存じます。75年前のような息苦しさを感ずる、という方もいます。

今年の秋から冬にかけて、事態はもっと深刻になると予測する医療関係者もいます。国民の間で多くの不安が渦巻く中、野党の臨時国会の召集要求に対し、政府・与党は早期召集に応じない一方で、7月からは「GOTOトラベル」にやっきになっています。その結果、東京都など大都市だけでなく、沖縄県など地方に蔓延し、医療崩壊が切実な問題になっています。安倍政権には、多額の税金を使って「アベノマスク」と揶揄された施策をはじめ、「自分たちさえよければ、今さえよければ」と、国民一人ひとりのいのちと暮らしを守ろうとする気はまったくなさそうです。

Japanese government seems to be indifferent to the suffering of the people.

次回のニュースは来年4月1日となります。コロナ禍の下でどう過ごし、何を感じたかなど会員の声を掲載したいと思います。ぜひ「退職者会」までお寄せ下さい。

(101-0003)千代田区一ツ橋2-6-2 都高教内 「都高教退職者会」

(編集子)

書籍紹介

『鉄筆とビラ』／「立高紛争」の記録 1969-1970 (都立立川高校「紛争」の記録を残す会 編 「同時代社」)

元都立高校教員であり、私の大学時代以来の友人であった小泉秀人君を含む7人の「残す会」の皆さんが、表記の書を刊行した。彼らが都立立川高校在籍中に「勃発」した「紛争」について、「ありのままに当時を再現しよう」とビラや文書などの生資料を丹念に発掘しまとめ上げたものである。

刊行の報に接した時、ひねくれ者の私の受け取りは、ネガティブだった。「50年前のことを振り返ってどういう意味があるのか」「高校闘争はしよせん大学闘争の二番煎じに過ぎなかったのではないか」……。どっこい、本書はこれに真正面から答えていた。「50年後の現在、高校や、当時の『高校紛争』に大きな影響を与えたと考えられる大学のキャンパスの状況は、かつての『紛争』などなかったかのようなものである。このまま埋もれさせたくない、その一心で私たちは小著を編んだ。小著の出版を機に、あの『紛争』とは何だったのか、今日それについて考えることはどんな意義を持っているのか、現在のわが国で民主主義はどうなっているのか等々の議論や『あの頃のことを、もっと知りたい』といった声がわきおこることを願ってやまない。」(「まえがき」)。

思えば「50年前」、「高校生」は点だが、私たちはその後「50年間(近く)」高校生と接してきた。それは線であり面である。それらが「50年前の高校生」と完全に断絶していると考えるのは、ノスタルジーとは逆の意味で怠惰と言わなければならない。私は少々素直になって本書を手にした。以下の目次で概要をお知らせしたい。

第1部 実録「立高紛争」
第1章 バリケード封鎖から解除まで／動揺そして混迷
第2章 生徒総会とクラス討論の2週間／生きるとは、自分を表現すること
第3章 バリケード前史／立川高校という学校
第4章 ロックアウト下の800名署名と『静かなる、切なる訴え』／民主主義と学習権
第5章 生徒会再建と新生徒会長の選出へ／民主主義と学ぶ権利をめぐる攻防
第6章 講座制実現への動き／「学習権」を実体化する制度作り
第2部 50年前のわたし、50年後のわたしたち
第7章 蒼き時代の「漂流」と50年後の「ノーサイド」 中林信二
第8章 女子生徒の見た「紛争」／50年前の「自由と規律」 立川高子
第9章 キャンパス派を生きて 秋月雅裕
第10章 「立高紛争」が、こんにちの私たちに訴えかけるもの 木村均
第3部 資料 ビラ・冊子リスト

「明治100年」がうたわれ、大阪万博開催で沸き立つ一方、ベトナム反戦や「70年安保」、大学闘争や高校闘争、新宿西口地下広場が若者たちで埋め尽くされていた時代の高校生の記録である。私は当時大学に在籍し、執筆者と同じく蒼い時代を漂流していた。「自己否定」「バリケード封鎖」などの言葉が氾濫する時代、自ら考え動いていった記憶は誇らしいがほろ苦くもある。退職者の皆さんもとりどりに、あるいはひりひりと、あるいはいとおいしく、あの時代を思い起こすことがあるだろう。本書を編んだ方々と思いを異にする方も少なからずいらっしゃるに違いない。本書は率直に語る。「小著の叙述には、違和感を覚える向きもあるかも知れない。だが、そこで多くの方々の発言が加わり、議論が活発化すること私たちの望むところである。」(「あとがき」)。

原発、地球環境破壊、グローバル化の下での格差と貧困の拡大、戦争の脅威、そしてコロナ禍の下にある私たちが、あの時、あれから何を学んだのか、何を忘れたのか、そしてなお、今、何ができるのか。胸に手を当てて考える糸口に本書はなるに違いない。

杉浦孝雄 (退職者会幹事)



読書「鐘の渡り」(古井由吉) 新潮社

古井由吉さんが亡くなりました。この方の作品はけっこう読みましたが、このブログでは二冊取り上げました。その二つを再掲。
《2014・5・30 掲載》

時・空を、あるいは人称を越えた語り口。これが、この方の小説作法なのだろう。夢うつつ、その端境に聞こえる声、声、声……。鳥の、赤子の、老人の、両親の、兄弟の、……。そして、晩鐘の。否、外界の音だけではない、自らの内から聞こえてくる音。これらの深みに対しては、彩りをなす花々は、どれもこれも「淡い」イメージ、もっといえば、セピア色、さらにいえば、無色透明ささえも感じ取らせる。

死者は、息を引き取る際、五感のうちの聴覚が最後まで残っていると聞いたことがある。生者と死者との交流は声をもって終わりとなすか。そして、さまざまな、肉親を含めて人間を看取る主人公。

いつか自分も。

老いてますます研ぎ澄まされる聴覚、そして視覚、嗅覚、……。五感。身体へ心へ染み渡り、醸し出される、不思議(思議せず)な「小説」世界。登場人物たちは、自在に己の世界を紡いでいく、その語り部としての作者に徹底する姿勢は、読者をうならせる魅力にあふれている。

「窓の内」から始まる八つの連作。騒然と、何かにせかされるように生きる(しかない)現代人に静寂をかき取る感性というものの豊かさを気づかせる見事な語り口でした。

「鐘の渡り」。3年ばかり暮らした女をついふた月ほど前に亡くした友人に誘われて晩秋の山にでかける男。自身は春には女と暮らすことになるだろうと思っている。

「一鐘の音に目を覚まして、ひさしぶりにぐっすり眠った気がした。思うことも尽きたように鳴り止んだ。明日からは物も考えなくなるだろう。」

山から帰った晩、女の部屋を訪ね、目の前の女にのめりこんでいく男。山で聞いた鐘の音は二人の幻聴だったのか、とも。

「朝倉のつぶやきが隣でまどろむ自分の内に鐘の音を想わせ、余韻の影を追いきれなくなり目をさました自分の声が朝倉の内に、幻聴ながらおそらくくっきりとした、鐘の音を響かせた。これはつかのまながら交換になりはしないか。暮らした女を亡くした男と、これから女と暮らす心づもりの男との間の。」

こうして、幽冥の世界が描き出される。過ぎ去った者の生の声、声、声。連作を通して通奏低音のごとくに響いてくる。



仮往生伝試文 講談社文芸文庫 《2005・2・14 掲載》

……

ふとこの小説を読んでいてさ
僕等にとっては、今も昔もこれからも次第に混沌とした意識の中に
取り込まれていくような
そういうところにしかたなく身を置きつつ生きている
何かさびしい思いになったね

でも死の現実には逃れられないんだから
せいぜい生きた証としての人生を全うしたいよね
それにしても作者が50歳のころに
こうしたさまざまな晩年を描いていたとはね
一度読んでみてよ、若い人にぜひ勧めるね
厚くて重い本だけど、その分、読み応えがあると思うから

注：本の写真は、二冊とも「アマゾン」からお借りしました。

(「おやじのつぶやき」ブログより)

今どきの「落語」案内——初心者のための アズキアライ

第16回 ベテランの活躍、その1

コロナの猛威の中で、落語会が中止か延期となり、生の落語を見て聞いて楽しむことがほぼなくなりました。最近はやうやく、小さな会場での落語会や、定席の中にも公演を始めたところもあります。私も、そろそろチケットを予約してなどと考えています。とはいえ、しばらく生で聞けなかったので、今回と次回は、最近テレビで放映された過去の名演を中心に、ベテランたちの実力に迫ってみます。

柳亭市馬（1961年生まれ）——落語協会の顔。頂点をめざす芸。

落語協会会長・市馬さんの芸が、一気にすごい高みへと駆け上ろうとしています。地上波TBSとBS-TBSで不定期に放映される《落語研究会》。それを収録する実演《落語研究会》は、歴史と格式ある会員制の定期公演です。とはいえ、最近を決して上手いとはいえない人の出演も多く、私は会員にまではなっていません。さらに、国立劇場小劇場という会場のせい、

演者が行儀よくし過ぎること、会員が概して高齢で大声で笑わないことが、物足りません。客席と演者が一体となるような高揚感が味わえません。ただし、行儀よすぎるのは物足りませんが、演者が自分の芸の最高のレベルを見せようという覚悟は伝わってきます。名演が生まれる可能性はかなり高いのです。

「淀五郎」——今見られる最高の芸のひとつ

今年5月の地上波TBSで放映された市馬さんの「淀五郎」には、目が覚める思いでした。これまで高座で数々見てきた市馬さんは、どれも高い水準、見ていて飽きない、楽しめるものばかりでしたが、仮に見なかったとしても、人生の損失とまでは思いませんでした。よく通る声、明るく、力もほどよく抜けて、丁寧な高座は、いつ見てもかなりの満足ではありましたが。

ところが、こうした魅力はそのままに、この「淀五郎」は、登場する三人の歌舞伎役者の人柄、芸のレベル、心の動きを伝えて、存分に行

き届いた至芸だったのです。

江戸期の役者・沢村淀五郎は実在したそうですが、この癖のような名優というわけではなく、「淀五郎」は、落語の世界が生んだ創作であるようです。

四代目市川団蔵が座頭として「仮名手本忠臣蔵」を興行します。ところが直前に判官役が病に倒れ、団蔵は急きょ下っ端役者・淀五郎を代役に大抜擢します。一気に名代というトップの一角に引き揚げたのです。

由良之助（団蔵）が花道から出てこない！

四段目（判官切腹の場）。大星由良之助「ただいま到着つかまつりました。」検死役「おお、大星か。苦しゅうない。近う近う。」由良之助は淀五郎の判官を遠く見て、「ははっ。・・・？何だいこりゃ？こんなものの側へ行ってお殿様と頭を下げなくちゃならない。あーあ。いやだ、いやだ。」団蔵の由良之助、花道で止まったまま動かない。淀五郎の判官「由良之助か。」刀を腹に刺したまま脇を見るが、由良之助がいない。

その日の終演後、淀五郎は師匠・団蔵に「どうして、（判官のそばへ）おいでになりませんか？」

「お前の役は何なんだ？五万三千石の大名だよ。」「では、どうやって腹を切ったら？」「お前が主人だよ。家来の私がどうやってなんて言えないよ。」

ここまでで、市馬さんは、淀五郎のまづい芸、師匠の無茶な対応を、舞台上の二人の心理を探り当てながら、鮮やかに演じ分けます。まづい芸といっても、座頭に大抜擢された淀五郎の芸です。ここを落語家がいい加減にやっては、嘘くさくなります。歌舞伎の型や口跡にきちんと乗っていなければなりません。市馬さんの淀五郎、立派なものです。市馬さんの朗々とした声の良さ、声量も生きています。立派だからこそ、

それなのに師匠・団蔵がなぜ怒ったかと、観客を引きつけるのです。その団蔵、「いじわる団蔵」と呼ばれていたと、紹介されます。意地悪か？意地悪だろう。けど待てよ、団蔵自身が淀五郎を大抜擢したんじゃないか。では、これは期待ゆえのムチか？そうか、ムチか？だが、舞台の団蔵の苦々しいセリフと口吻は、ありゃナンだ？落語の観客は、こうして高座に引き込ま

中村仲蔵の助け——風格と芸談

以前から淀五郎に目をかけていた名優に、中村仲蔵がいました。この人も無名の下っ端からトップに上り詰めた苦勞人です。

淀五郎「親方（仲蔵）にいとまぐいにあがりました。」「どこへだね？」「西の方へ参ります。」「いつ、たつんだい？」「明日たちます。」「……舞台の三日目に西へ発つと聞いて、仲蔵はピンときます。「人に話せば、何か灯りがさすこともある。どうだい相談に乗ろうじゃないか。」鷹揚で、しかもきびきびした応答、人物

仲蔵の教え——「私のいい形を見てください」では、大名の格は出ない

淀五郎に演じさせてから、仲蔵はさとしします。「『どうです、私のいい形を見てください』という気持ちが出てしまっ、私が見ても見られない。」それじゃあ大名の格は出せないよ、というわけです。そして、演じ方の工夫を一つ一つ教えます。「九寸五分を腹に立てたら、お前さんも寒いなあ寒いなあという気持ちでやってごらん。」「……」「淀さん、みんなお前に期

三日目の舞台——淀五郎の大化け

もしかしたら今日が最後の舞台になるかも、という意気込みの淀五郎。「近う、近う。」由良之助は、花道で頭を下げ、上目づかいに判官を見て、「へえー！若いってのはいいねえ！一晩でいいものができた！」ツツー。ツツー。「御前！」「由良之助か。」花道見たら、いない！

市馬さん落語、これがお薦め

市馬さんの上品さ。高座の市馬さんは、庶民性を失わないのに、くだけ方にも節度があります。「タメ」（意識的に入れる「間」）は必要最小限にしか作らない。わざとらしさがありません。少しも偉そうにしないのに、豊かな空気をまといます。

そんな市馬さんの「淀五郎」。際立つ名演です。

その他の演目では。市馬さんなら、どれを聞

れます。市馬さんの、まさしく話芸です。

次の日の舞台も同じことのくり返し。淀五郎は、明日は本当に舞台上で死んでやろう、本物の刀で師匠を刺して自分も死のうと、切羽詰まっています。それを市馬さんは、少しも重々しくせず演じ進めます。重みをかけ過ぎない。暗く語らない。市馬さんの芸の一つの持ち味です。

の大きさ。師・団蔵を刺して自分も死のうという淀五郎に、「淀さん、お前さんも了見が若いなあ！」風格の仲蔵と、切羽詰まった若気の淀五郎を、口跡と雰囲気演技で演じ尽くします。しかも、いささかも過剰な身振りをしない。ほぼ口跡と表情で、それも少しもオーバーにならない口跡（せりふ回し）や表情で、二人の格の違い、二人のスケールの違いを演じ分けてしまいます。そして、いよいよ、貴重なアドバイスに入ります。

待しているんだよ。」情の深い言葉が淀五郎の肺腑にしみます。仲蔵の言葉は、いらだちと叱責が前面に出てしまった団蔵の心の底にある弟子への期待をも浮かび上がらせているのです。それには、仲蔵の度量の深さが高座に表れなくてはなりません。少し前の市馬さんに比べても、ずっと大らかな空気をまとった市馬さんを通して、みごとな人物のスケールが現れました。

いや、由良之助の声は聞こえた。淀五郎は自分のすぐ脇を見た。いた！「待ちかねたあー！」

このオチの軽さも、市馬さんの語りによる人物たちのせりふ回しの見事さが、歌舞伎舞台の再現になっているからこそ、軽みとして際立つのです。

いても十分楽しめますが、私が特にお薦めするのは、地方の大名と吉原の花魁。その恋の交信を描いたほのぼの落語「杯の殿様」。失態が変じて法外な幸運をつかむ番頭の物語「お神酒徳利（おみきどっくり）」。師・五代目小さんの得意ネタ「粗忽の使者」、市馬さんらしい大らかな笑いが魅力です。芝居狂いの忘我の境地「七段目」。ドタバタ劇転じて命の危険、でも落語だから笑いのうちにオシマイとなる「花見の仇

討ち」。火の用心の番小屋でドタバタがヒートする「二番煎じ」。市馬さんは例年、年末には自慢のノドを披露する歌謡ショーもやっ

す。そのノドが楽しめる「掛け取り（掛け取り万歳）」。

2020. 8. 5



著 書 柳亭市馬の懐メロ人生50年(白夜書房)
得意ネタ 高砂や、青菜、堪忍袋、味噌蔵、掛取美智也など
趣 味 流行歌を聴く事・唄う事、芝居(歌舞伎)見物
本人より一言 落語は、背景に浮世離れの感はありますが、登場する人間の心情に変わりはないと思います。噺の幹のところを押さえて、見失わず、言葉遣いに責任を持って、その場のお客様に喜ばれることを旨としています。
(この項、「柳亭市馬」公式HPより)

《補足》

地上波TBSの《落語研究会》

月1回、第3日曜日、朝4：00～。出演者などは、ネットで「TBS落語研究会」を検索してください。

BS-TBSの《落語研究会》

月1回放映。深夜3：00～4：00。臨時に2時間版の放映も。放映日・出演者は、ネットで「BS-TBS落語研究会」を検索してください。
この二つとも、時間的に、録画予約をするとよいでしょう。

コロナで落語会が軒並み中止というなか、ネット配信ということで、ユーチューブなどで、中堅の人気落語家や、若手がさまざま配信しています。ただし、ほとんどが無観客の落語のようです。観客の笑い、拍手、眼差し、息づかいが存在しない口演は、落語家も乗っていきにくいでしょう。

私は、春風亭一之輔のユーチューブ配信を三席見ましたが、少しも楽しめませんでした。同じ一之輔さんがこの夏にNHK・Eテレでやった二席（7月30日現在）「居残り佐平次」「鼠穴」は、上々のできばえでした。人数は絞っていましたが、観客の入った久々の本格的な高座で、しかも時間たっぷり名作を長講となれば、一之輔さんも力を発揮します。木曜のEテレです。（この項、アズキアライさんより）

カンパのお礼・カンパのお願い

2020年3月～2020年7月末までにいただいたカンパのお礼を申し上げます。

今回は新型コロナによる感染拡大にもかかわらず、カンパの振込をしていただき、ありがとうございました。

このような状況の中なので、会員の皆さまの暖かいお気持ちを一層強く感じました。幹事一同感謝しています。

都高教退職者会や辺野古へのカンパをいただいたおかげで、今年度もニュースの年2回発行や辺野古の闘いへカンパができます。辺野古カンパは11月の辺野古座り込みに持参し、現地にお届けします。

2019年度カンパの総額と支出の内訳は、議案書に載せてありますので、ご一読ください。

2020年4月以降のカンパ総額等は、来年度の総会の時に、ご報告いたします。

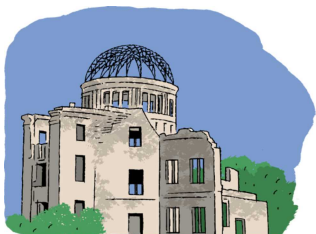
都高教退職者会はこれからも、憲法・平和を守る活動を行い、地公退や退職者連合とともに「年金・医療・介護」に取り組みます。

また「歴史散歩」「メーデー懇親会」など皆さまとお会いできる機会を作り、親睦を図ります。

今年度はコロナ感染拡大の状況によっては、活動をひかえることもあるかもしれませんが、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

カンパをいただいた皆さん（2020年3月～2020年7月末日・敬称略）96名

藤井 利明	武藤 徹	大久保 正明	加藤 良雄	多田 純一	匿名希望
津久井 富造	高柳 直正	安田 恭子	佐々木 淳子	伊藤 茂雄	河野 亮玄
田幡 二三夫	中下 鸞平	村上 信子	田中 善樹	島根 百合子	三井田 達雄
小林 育枝	竹内 健三	松谷 健司	蒲生 眞紗雄	上條 毅	藤原 正子
山田 雅男	大口 和枝	水波 佳津子	氏名無記入	前山 賢	佐藤 美知子
鈴木 秀肖	斎藤 義夫	石塚 恵子	大和田 茂	高橋 千代子	高沢 茂
石射 保	矢島 恒之	早川 利雄	小林 裕	森口 藤子	棚井 行隆
藤原 立子	北川すみれ	小池 治男	佐藤 正八	新田 伴一	橋本 きよ子
上野 薫生	猪平 信雄	池辺 一男	大澤 光美	杉浦 孝雄	宮崎 宏一
高根 親子	隅田 三朗	伊藤 三男	石垣 康雄	仲村 実明	梅澤 秀藍
貫井 茂	斎藤 安正	田中 道暁	浜田 正紀	岡田 光好	小林 稔
見目 ユキエ	高橋 節子	下野 紀子	佐藤 光子	梅崎 幸信	鈴木 みち子
園田 美男	小林 幸枝	角田 洋子	岩崎 信夫	岡部 保博	西川 明代
森 精	糸井 久	佐藤 英子	村上 芙佐子	板津 久子	中井 陽子
志村 洋子	山本 和夫	宮奈 栄	笠井 克尚	水野 彰	石手 正明
田中 直美	山田 功	小野寺えり子	上田 實	片山 亨	嶋津 誠一



2020年度 第6回 辺野古座り込みツアーへのお誘い

6月の辺野古座り込みツアーは、新型コロナウイルス感染拡大のため延期となりました。

改めて下記の日程で行いますので、会員の皆さま！辺野古にご一緒しませんか？

6月12日政府は辺野古での基地建設工事を再開しました。県議選で新基地建設反対の民意が明らかになった直後のことでした。オール沖縄の市民も抗議行動を再開しました。

私たちも「あきらめないこと」を肝に銘じて、沖縄の人たちと共に、しなやかに楽しく非暴力の闘いをしたいと思います。現地は高齢者が多く、安全に配慮して行動しています。都高教退職者会も安全第一です。

記

☆ 日時 11月3日（火）～5日（木）

☆ 集合時間 11月3日（火）16時（できれば15時半過ぎ頃、早めにお集まりください）

☆ 集合場所 那覇空港1階到着ロビー外「レンタカー送迎バス乗り場」の都高教退職者会の旗付近。

空港到着口から出口に向かい横断歩道を渡り、中央分離帯のスペースにあります。

① 日程 11月3日（火）名護「ルートイン名護」付近の居酒屋で県退教・高退教などと懇親会

11月4日（水）名護「ルートイン名護」8時15分出発→辺野古座り込みと安和の行動等

○ 昼は、お弁当を予約します。

○ 夜 希望者懇親会。

11月5日（木）名護「ルートイン名護」8時15分出発→辺野古午前中座り込み。
午後は途中伊芸SAで昼食をとり、空港へ向かう。

② 往復の飛行機は各自でおとりください。3か月前なら往復25000円くらいです。

行き… 11月3日（火）那覇空港に15時半前後に到着できる飛行機

帰り… 11月5日（木）那覇空港17時過ぎ出発の飛行機

☆ホテル

名護のホテルを2泊、各自でご予約下さい。ビジネスホテルなら一泊7000～8000円くらいです。

本部は、名護「ルートイン名護」なので同じホテルを予約されると便利です。

☆費用…集合時に集めます。又は毎月実施の19日国会前行動にご持参ください。

15,000円（レンタカー・高速料金・ガソリン・弁当・懇親会費用等）

☆その他…全部合わせて費用は、55000円くらいかかります。

- ・沖縄では、日焼け対策として帽子・長袖シャツ・マスク（必要）・サングラスなどが便利です。
- ・大雨の場合、雨具（上下）・ビーチサンダルがあると助かります。
- ・水分補給を十分にしてください。
- ・両日とも朝食はしっかりおとりいただき、体調が悪ければ本部にお知らせください。
- ・辺野古座り込み現場はトイレ送迎車が頻繁に出ているのでご安心ください。
- ・申し込み締め切りは9月末日です。
- ・コロナ感染拡大の状況によっては延期の可能性がありますので、ご了承ください。

問い合わせ・申し込み：本村富美子（都高教退職者会会長）

携帯090-8813-1264

[メールfumimotomura221@asahinet.jp](mailto:fumimotomura221@asahinet.jp)

東京歴史散歩「中山道・板橋宿まで」へのお誘い

江戸時代、中山道は人々の往来で賑わいましたが、鉄道や道路網の発達とともに多くの宿が衰退していきました。しかし、日本橋から第1次の板橋宿の商店街は買い物客などで活気を今に留めています。今回はその街道を巣鴨から板橋宿の先まで歩きます。

今のところ懇親会の開催の場所が確定していません。散策後希望者のみの飛び込みとなるかも知れません。ご承知おき下さい。

日 程 10月17日（土）
集 合 10時 地下鉄三田線巣鴨駅「出口専用改札」
コース 巣鴨駅→とげぬき地蔵→千川上水公園→近藤勇の墓→東光寺
→板橋宿入口→仲宿商店街→板橋宿本陣碑→石神井川に架かる橋
→縁切榎→清水種苗店→懇親会

主 催 都高教退職者会 厚生部

注意点 コロナ感染の具合により中止の可能性もあります。参加希望の方は前日までに担当川口の携帯電話までお問合せ下さい。

☎090-4812-5599



都高教・都高教退職者会共催「憲法学習会」

「憲法とジェンダー」

講師 中野麻美さん（弁護士）

日時：12月5日（土） 15時～17時
場所：日本教育会館 901
（地下鉄神保町A1下車5分）



中野さんのプロフィール・・・

1979年 弁護士登録。NPO派遣労働ネットワーク理事長。日本労働弁護団常任幹事。

著書…「雇用破綻最前線—雇止め・派遣切り・条件切り下げ」（岩波書店）・「労働ダンピング～雇用の多様化の果てに」（岩波新書）・「ハラスメント対策全書」（編著：エイデル研究所）・「派遣法改正で雇用を守る」（共著：旬報社）他多数

労働問題や差別・格差などに取り組み、また現在安保法制違憲訴訟・女の会の代理人も務める。

講演は・・・

4月に緊急事態宣言が出され、私たちは感染収束のため、憲法に保障されている自由や権利を制限されました。安倍首相はこの状況の中でも改憲への意欲を示し、国民投票法改正をもくろんでいます。

2015年安保法制以降、日本は戦争のできる国へと舵を切り、防衛予算を膨張させ、社会保障や福祉や公衆衛生予算を抑制しています。コロナ感染拡大では、休業要請・自粛により、非正規労働者や女性や障害者や外国人が仕事を失い、生活を脅かされました。

今こそ労働問題や差別・格差など、中野さんがこれまでジェンダー平等の視点で、手掛けてこられた裁判、憲法への取り組みを学び、これからを考えましょう！